

第 21 回 東海村地域公共交通会議

【日 時】	平成 31 年 1 月 29 日(火) 10 時 30 分～11 時 30 分	
【場 所】	東海村産業・情報プラザ 多目的ホール	
【出席者】	(委 員)	出席 13 名(うち代理 2 人)／欠席 10 名
	(オブザーバー)	出席 2 名

1. 開会(企画経営課)

2. あいさつ

(萩谷副村長)

- ・ 本日は、大変お忙しい中、第 21 回の東海村地域公共交通会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。
- ・ さて、21 回目を迎えた本会議は、平成 26 年度から本村の地域公共交通のあり方について本格的な検討を開始し、この間、住民や利用者へのアンケート調査、事業者等へのヒアリング等を実施するとともに、民間路線バスの可能性について議論してまいりました。その結果、平成 27 年度から路線バスの実証実験、平成 28 年度から実証実験の中からある程度採算性が見込める 3 路線の本格運行化、そして昨年 4 月からは、さらに 1 路線の実証実験を加え、計 4 路線、1 日あたり 61 本もの本数を運行するに至りました。
- ・ さらに、日本原子力研究開発機構において、これまで自社バスで運行していた通通勤バスを構内での運転にとどめ、東海駅から各事業所までは路線バスを活用する方針を打ち出していいただきました。その結果、茨城東病院線については、前年度比約 20,000 人増、全路線の利用者数も前年度比約 27,000 人増と大幅な伸びがみられます。
- ・ 一方で、新設した笠松運動公園循環線については、厳しい利用状況が続いており、引き続き沿線事業所や自治会、笠松運動公園ともこれまで以上に連携し、利用促進に取り組まなければならないと考えておりますが、笠松運動公園にアクセスできる本路線は、大きな可能性を秘めているとも考えております。今年はいよいよ「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されます。笠松運動公園では、総合開閉会式や陸上・水泳等の競技が予定されており、期間中、多くの方々が本村を経由して移動することになります。移動手段の確保は欠かすことのできない要素であり、路線バスが担う役割がますます重要になると考えております。
- ・ また、デマンドタクシーにつきましても、前年度を上回る利用状況で推移しており、多くの方々にとって、日常生活上の足として定着しております。引き続きキャンセル対策という大きな課題は抱えておりますので、声掛け運動やチラシ配布など対応を図っていきたいと考えているところでございます。
- ・ これまで検討を重ねてきた地域公共交通網が一つの形となり、着実にステップアップしてきた訳でございますが、これが最終形だとは考えておりません。公共交通を維持・確保するための最大の課題は「採算性」でありますことから、今後も利用状況などを注視するとともに、新たな

需要の見定めや要望等に耳を傾けつつ、本会議において皆様のご意見を頂戴しながら協議を重ねてまいりたいと考えております。

・ 本日は、公共交通の利用状況や補助事業の活用に伴う評価などを予定しておりますので、様々な立場・視点からのご意見をよろしくお願いいたします。

3. 協議事項

(1) 公共交通の利用状況について

○ 下記資料に基づき説明(事務局)

(資料 1) 平成 30 年度 公共交通の輸送実績

(資料 2) デマンドタクシー「あいのりくん」年度別利用実績

(資料 3) 茨城交通(株)路線バス 年度別利用実績

【質疑・意見】

(委員) デマンドタクシーの無断キャンセル数が減らないことが課題だということだが、個人の特定はできているのか。

(事務局) 特定はできている。中でも高齢者は予約したことを忘れてしまう人が多い傾向にあるので、無断キャンセルが多い利用者には、オペレーターから利用時間前に電話をして、予約確認を行っている。

(委員) 実はデマンドタクシーは、親が迎えに行くことができない小中学生の下校のための利用も増えている。時間によっては乗ることができないこともあるため、利用しやすい環境づくりをしていく必要性を感じている。

(委員) 認知症のキャラバンに参加したことがあるが、昔のことほど覚えており、最近のことを忘れてしまうことがあるようだ。単独で予約してもらうよりも、スタンプやプレゼント等の特典を用意してグループ予約の推奨を検討してみてもどうか。

(委員) オペレーターや運転手が持つ情報は、村も共有できているのか。

(事務局) オペレーター、運転手が持つ情報は村、社会福祉協議会で共有している。社会福祉協議会の持つ情報と合わせ、地域の中の動向を把握することに役立っている。

(委員) 路線バスのうち、笠松運動公園循環線の実績が良くない。国体に向けては重要な路線だとは思いますが、どう考えているか。

(事務局) 笠松運動公園で大きなイベントがあった 8 月のみ利用者が突出しているが、ほぼ 100 名程で推移しており、厳しい状況である。沿線住民の日常利用や笠松運動公園との連携も考えていく必要があるので、来年度の課題として考えつつ、会議で議論していきたい。

(委員) 茨城東病院線の利用者増の理由は、日本原子力研究開発機構職員の通勤での利

用が主だとのことだが、それ以外の要因はあるのか。
(事務局)バスに馴染みのある地域をバスが走っているということもあるが、ここまで増えた要因として大きいのは、職員の通通勤利用である。通通勤利用については、平成 27 年度から協議を重ねてきた。

(2)平成 30 年度【対象期間:H29.10.1～H30.9.30】地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)の一次評価について

○下記資料に基づき説明(事務局)

(資料 4)地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

(資料 5)地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

【質疑・意見】

異議なしのため了承

(3)今後のスケジュールについて

○下記資料に基づき説明(事務局)

(資料 6)今後のスケジュールについて

○南台自治会で 12 月に実施したイベントについて、三上委員より説明

・12 月 21 日に、自治会・村・茨城交通の三者協働により、路線バスを利用した「おでかけツアー」を実施し、それぞれの自宅から近いバス停から路線バスに乗車し、車内ではバスの乗降の仕方やいばっぴ(ICカード)の説明を受けながら東海駅に向かい、イオンでの買い物や図書館に行くなど、参加者それぞれが自由な時間を過ごした後、再集合して路線バスを使い、自宅へ戻った。

・当日は村長にも参加していただいたことから、参加者からは非常に好評を得られた。

・バスは公共交通として、まちのあり方そのものに繋がる。今後もバス利用の促進に努めたい。

【質疑・意見】

なし

(4)その他

なし

4. 閉会(企画経営課)

- ・ 次回は3月下旬の開催を予定しているが、急を要する議題が無い場合は、年度が変わってからの開催としたい。日程が決まり次第、通知をさせていただく。